



# 再生可能 エネルギー事業

## 再生可能エネルギーの開発・普及および発電事業

### 強み

- 永年にわたる電源開発・発電事業で培った多様なステークホルダーとのつながり
- 再生可能エネルギーの価値提供に関するグループ会社も含めた高い技術力・プロジェクト開発力

### リスク

- 競合発電事業者との競争
- 自然災害の激甚化
- 既存電源維持管理コストの増大

### 機会

- 世界的な脱炭素・エネルギー安全保障の重要性の高まり
- GX推進法・GX脱炭素電源法が成立し、2050年のカーボンニュートラル実現・再エネ主力電源化に向けた動きが加速
- RE100等の再エネ電気へのお客さまニーズの高まり

### 取り組み

再生可能エネルギー電源の開発加速

- 洋上風力、陸上風力、バイオマス、水力、太陽光、地熱の開発・保有拡大
- 既存電源の設備改修・強硬化およびかいぜん・DXによる、増出力・増電・効率運用

お客さまとともに進める再エネ拡大

- グループ会社による設備の施工・保守
- お客さまの課題に合った脱炭素サービスの提供

### 目標

再生可能エネルギーの拡大\*

- 2030年頃に320万kW(80億kWh)以上の拡大
  - 再エネ事業中心に4,000億円程度の戦略的投資
- \*保有・施工・保守を含む再生可能エネルギーの価値提供

新規電源開発の確実な遂行

主な開発地点(運転開始予定年度) \*グループ会社による開発

- 2023年度 清内路水力(長野)、\*中切水力(岐阜)、あつみ風力(愛知)、蒲郡バイオマス(愛知)、美濃加茂バイオマス(岐阜)
- 2024年度 安倍川水力(静岡)、ウインドファーム豊富(北海道)、八代バイオマス(熊本)
- 2025年度 田原1区バイオマス(愛知)、福山バイオマス(広島)

お客さまとの再生可能エネルギー拡大

- 2023年度までに150件を超えるお客さまに、オンサイトPPAサービスをご利用いただく予定



長野県下伊那郡阿智村にて建設中の「清内路水力発電所」

社会・お客さまとともに進める再生可能エネルギー拡大により、我が国のエネルギー自給率の向上と脱炭素社会の実現に貢献します。



専務執行役員  
再生可能エネルギーカンパニー 社長

鈴木 英也

中部電力グループは、再生可能エネルギー拡大目標「2030年頃に320万kW(80億kWh)以上」の達成に向け、永年にわたる電源開発で培ったプロジェクト開発力を存分に発揮し、地域社会やお客さまとともにグループ一体で再エネ拡大へ果敢に挑戦してまいります。

再生可能エネルギーカンパニーは、2022年度に、お客さまのニーズにお応えするオフサイトPPAサービス実施に向けた「しずぎんソーラーパーク(静岡県)」の開発決定や、国産の未利用間伐材等を燃料として有効活用する「ごうどバイオマス発電所(岐阜県)」の運転開始等、新規電源の開発を着実に進めました。また、既設水力についても、設備改修・強硬化に加え、かいぜん活動やDXを推進し、発電電力量を増加させました。

引き続き、地域の皆さまからご理解をいただけるようコミュニケーションを図りながら、公衆保安の確保を大前提に脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

### 目指す姿

#### ミッション

- グループ一体となり2030年頃に320万kW以上の再エネ拡大
- 非化石比率向上・再エネ電源の主力化への貢献
- 安定・安価な発電の実現

#### 取り組み

- 再エネ案件の着実な開発・促進
- 戦略的投資等のあらゆる施策
- 既設設備の最大限活用

地球をまもる。未来をカエル。  
再生可能エネルギー

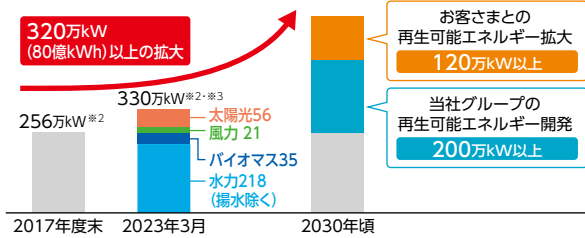
「脱炭素社会の実現」  
に貢献



モリオアガルのマモル

### 再生可能エネルギー拡大の取り組み

再エネ電源の開発加速およびお客さまとともに進める再エネ拡大により、「**2030年頃に320万kW(80億kWh)以上**」<sup>※1</sup>を目指し、グループ一体となって取り組んでいます。2022年度末時点の進捗状況は、グループ全体で約74万kW<sup>※1</sup>であり、目標に対して23%程度進捗しています。<sup>※2、※3</sup>



※1 2018年度以降に運転開始、もしくは開発決定した地点  
 ※2 未運開だが開発決定済み案件を含む ※3 グループ会社を含む持分容量

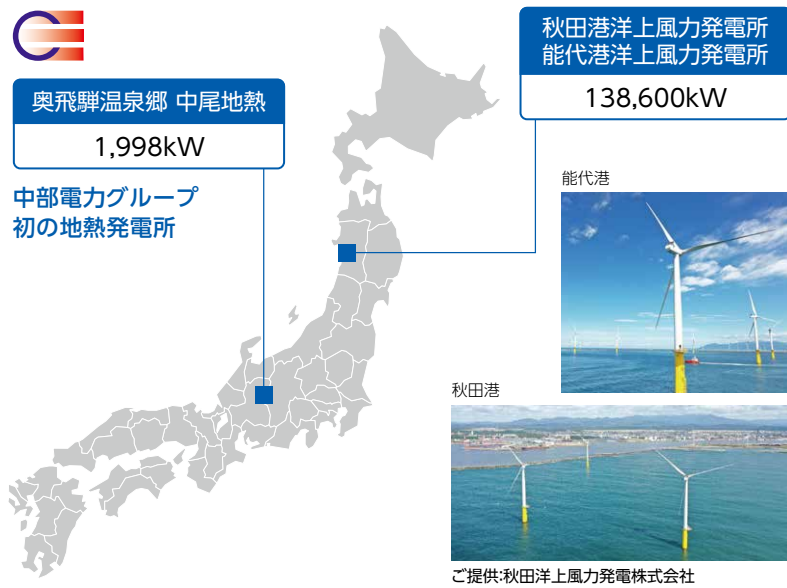
### 水力におけるかいぜん・DXの推進

水力事業において、競争環境を意識し、発電原価の低減に向けたかいぜん活動を推進するとともに、「効率化型」・「付加価値創造型」の両面でDXの取り組みを推進しています。

#### 水力におけるDX推進(代表例)

	効率化型	付加価値創造型
保守	●画像解析による異常の自動検出 ●危険箇所の見える化	●機器故障実績データ分析
運転	●適時適切な運転情報共有	●AIを活用した発電計画支援
	単純作業からの解放 公衆保安・安全確保	増電・収益向上 人材育成・技術継承等

### 2022年度の主な取り組み地点



当社は、特別目的会社「秋田洋上風力発電株式会社」(以下「AOW」)を通じ、秋田県秋田港および能代港において、国内初の商業ベースでの大型洋上風力発電プロジェクトを進めてきました。

2022年12月22日に能代港洋上風力発電所(4,200kW×20基)が、2023年1月31日に秋田港洋上風力発電所(4,200kW×13基)が、それぞれ営業運転を開始しました。

AOWでは、今後20年間に亘り、能代港を拠点とした運転保守体制のもと、発電所の運転維持管理をおこなってまいります。

### TOPICS

#### 中部電力グループ初の地熱発電所

「奥飛騨温泉郷 中尾地熱発電所」(出力1,998kW)は、焼岳を熱源とする新穂高温泉・中尾地区の豊富な地熱資源を利用した、中部電力グループ初の地熱発電所です。地中深くから取り出した蒸気でタービンを回す「地熱発電」は、昼夜・天候問わず24時間発電でき、安定した発電量を得られることがメリットです。



中部電力グループの株式会社シーエナジーが、東芝エネルギーシステムズ株式会社と共同出資する「中尾地熱発電株式会社」にて、2022年12月1日より営業運転を開始しました。

地下から噴気する地熱流体を蒸気と熱水に分離し、蒸気は地熱発電に、熱水は地元の有限会社中尾温泉に全量供給するシステムを構築することで、地域の温泉文化と地熱発電の共存共栄という新たなモデルケースを育てています。

今後も、中部電力グループは、低炭素社会の実現に貢献し、お客さま・社会からの信頼と期待に応え、選ばれ続ける「一歩先を行く総合エネルギー企業グループ」を目指してまいります。